

ほんとあそぶプラス

82号 2022年7月27日



おすすめのえほん

『じゅうじゅうじゅう』

あずみ虫/作 福音館書店 2022

赤ちゃんえほん。「じゅうじゅう」って言えるかな？焼けたらいっしょに食べましょうね。モグモグ



『おしりじまん』

齋藤 楨/作 福音館書店 2022

幼児絵本。おしりのオンパレード。りっぱなおしりは、だれのおしり？小さいのはだれの？ (KM)



『王さまのお菓子』

石井 睦美/文 くらはしれい/絵 世界文化ブックス 2021

ミリーは、引き当てたひとを幸せにするためにパイの中に入った小さなお人形。

ベルのママは病気で、パパは今はいない。ミリーはベルに引き当ててもらいたい、と願うのですが…。

(K)



『ぞうになったうそ』

ティエリー・ロブレヒト/文 エステル・メンス/絵
ふしみみさを/訳 パイインターナショナル 2022

うそをついたら、どんな気持ちになるの？ この疑問に鮮やかに答えてくれるベルギーの人気絵本。

ちょっとした小さなうそが、どんどん大きく抱えきれなくなって…さあ、どうしましょう！

(kW)



『なかよしの犬はどこ？』

エミリー・サットン/作・絵 のざわ かおり/訳

徳間書店 2022



ひっこしてきたペニーに最初にできたお友だちは小犬。また遊びたくてその小犬を探すペニーに町の人たちはとっても親切。小犬はみつかるかな。細かく描きこまれた町の様子も楽しめます。

(H)

『ナイチンゲールのうた』

ターニャ・ランドマン/作 広松由希子/訳
ローラ・カーリン/絵 BL出版 2022

地球は色であふれてる



むかし、どうぶつたちはぼんやりくすんでいた。“なんとかしないと”とえかきさんは、どうぶつたちに次々色をつけ、最後に金の絵の具のひとしずくを小鳥ののどに、ぽつんとたらした…。

(T)

『ポチャップポチャップイソップ かえるのくにつたわるはなし』

イソップ[原作] アーサー・ビナード/再話 スズキコージ/絵
玉川大学出版 2022



平和になれたカエルたちは、つよい王様をくださいと神様におねがいしました。待ち望んだ末にやってきたつよい王様は、本当につよい王様でした。2000年以上語り継がれ今に生きるイソップのお話。

(A)

『魔法のことば』

柚木 沙弥郎/絵 金関 寿夫/訳 福音館書店 2021



ずっとずっと大昔、人と動物とは区別がなく、同じ言葉をしゃべっていました。それは魔法のことばで不思議な力を持っていました。エスキモーに伝わる詩の美しい絵本です。

(N)

『ぼくはなきました』

くすのきしげのり/作 石井聖岳/絵 東洋館出版社 2019



じぶんのいいところは?いくら考えても見つかるのは友だちのいいところばかり。先生がぼくのいいところをみつけてくれた!こどもたちの表情が豊かで最後になにこつてきますよ。

(YJ)

『クロベえ』

ふくだいわお/作 光村教育図書 2021



ぼくが生まれる前からいたクロベえ。ゆっくり歩くようになったクロベえとの散歩は困ることがたくさん。でも、気づくこともたくさんある。クロベえとの散歩はとてもユーモラス。

(S)

『そだててみたら・・・』

スギヤマ カナヨ/作・絵 赤ちゃん和妈妈社 2022

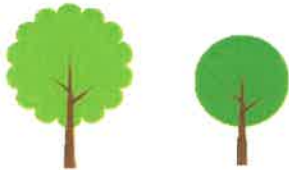


近所のたねやさんにすすめられたのは、なんのたねかわからない謎のたねだった。やがて芽が出た。くきはひょろひょろ。

世話をがんばっても、りっぱに育たないのはなぜだろう。

(M)

おすすめの物語



『タヌキの土居くん』

富安 陽子/作 大島 妙子/画 福音館書店 2022



山のふもとの小学校では新学期早々大騒ぎです。三年生の土居くんが実はタヌキだったって自分から正体をあかしたから。新学期の目標の一つに“しょうじきに!”ってあるからだって。

算数のとくいな土居くんは会計係にもりこうほ。みんなも認めて何やかんやと前より楽しくなってきたよ。

(H)

『おてがみほしいぞ』

こうまる みづほ/作 丸山 誠司/絵 あかね書房 2022



ヤギの郵便屋から手紙を受け取って喜ぶ動物たち。それを見たオオカミのギロンは自分も手紙が欲しかった。誰かに出すと返事が貰えると聞いたけれど、ひとりぼっちのギロンには手紙を出す相手がいなかった。そこでギロンは自分に手紙を書いた。

(S)

『けんかのたね』

ラッセル・ホーバン/作 大野八生/絵 小宮 由/訳 岩波書店 2022



「大きなもめごとってというのは、ほんのささいなことから、おこるもんなんだ」かわいがっている犬や猫まで巻き込んだ、この一家の大げんか。その原因を順繰りにたどってゆくと…。さてさて、まるく収まるのでしょうか?

(Y)

『草のふえをならしたら』

林原 玉枝/作 竹上 妙/画 福音館書店 2022



ブイツ ブブウ ププウ プピツ。すみれ組の子どもたちが鳴らす草のふえ。すると、その飾らない音色に应えるように、野山の生きものがやって来て、仲良しに。こどものときに遊びの中で耳にした音は、大人になっても思い出深く残っています。読み聞かせも楽しい、八つの物語。

(Y)



『コカチン 草原の姫、海原をゆく』

佐和 みずえ/作 トミイマサコ/絵 静山社 2022



モンゴル皇帝の娘コカチン姫は、草原を馬で駆け、狩りをするのが大好きな娘。訳あって西の砂漠の国へ嫁ぐことになった。14隻のジャンク船団が組まれ、同行者には西の国からの使者、侍女、なんとマルコ・ポーロも。

道中は波乱万丈。冒険の旅の終わりに待っていたのは…。少女漫画的エンターテインメント。

(O)

『東京タワーに住む少年』

山口 理/作 ふすい/絵 国土社 2022



小学6年生の健人は、じいやんと秘密の研究を進めている。それは、東京タワーの設計に携わった曾祖父から託された、東京タワーの上に虹をかけるというものだ。

「共同や協力なんて、もめる原因になるだけ」と一匹狼で研究を進める健人だが、どうしても行き詰まってしまふ。そんな時、同級生の心咲のお節介がもつて、思わぬメンバーと研究を続けることに。

(KA)

古いオレにさよなら

『ふたりのえびす』

高森 美由紀/作 フレーベル館 2022



青森県八戸市の伝統の祭り「えんぶり」を舞台にした、二人の少年の成長の物語。

福の神えびすを舞うことになった小学5年生の太一と優希。クラスの中では、おちゃらけキャラの太一に対し物静かな王子キャラの優希…ぎこちない二人の練習が始まる。自分を見つめなおしていく二人を見守る、親方や仲間が存在が厳しくもあたたかい。

(F)

『屋根に上る』

かみやとしこ/作 かわい ちひろ/絵 学研プラス 2021



中学生になったばかりの皓は、屋根の上で寝っ転がるのが好き。

はしごはおじいちゃんの作ったものだと大工の村田さんが教えてくれた。それを直す作業を手伝うことになった。

その後、村田さんの家で同級生の一樹と再会し、夏休みに工具箱をつくることになる。以前は苦手だった一樹と、しだいに心が通じ合うようになる。

(M)

『ルーミーとオリーブの特別な10か月』

ジョン・パウアー/著 杉田 七重/訳 小学館 2021



両親とも亡くし、異母姉モーディーといっしょに暮らすことになった12歳の少女オリーブ。とまどいも多いが、発見も多い毎日。ある日、姉の会社で子犬のルーミーに出会った。犬好きの彼女は大喜び。そのかわいさ、あまもうたまらない。そして、盲導犬になる子犬を育てる10か月が始まった。どんな生活が待っているんだろう？

(OY)

『シリアからきたバレリーナ』

キャサリン・ブルートン/作

尾崎 愛子/訳 平澤明子/絵 偕成社 2022



シリアの内戦から逃れ、命がけてイギリスにたどり着いたアーヤ。父とは途中でぐれ、気力を無くした母と幼い弟を支えなければならぬ。

バレエを習っていたアーヤは、機会があって、レッスンに参加させてもらえることになった。何もかも失い、難民となった彼女が、バレエを通して希望を取り戻していく。

(K)

おすすめのその他のジャンル

『わたしがテピンギー ハイチのおはなし』

中脇初枝/再話 あずみ虫/絵 偕成社 2022



中脇初枝さんの再話による「女の子の昔話えほんシリーズ」の1冊。テピンギーがともだちの協力でピンチをのりきるハイチの昔話です。立体的な絵で描かれた女の子たちは元気いっぱい!絵本からとびでできそうです。

(T)

『おこめをつくるのうふのふさん』

室井 さと子/作 新日本出版社 2021



のふさんは、棚田でお米を作っています。自然を敬い、動物や周りの人たちのつながりを大切にしています。一つ一つ手作業をして、できたお米を色々な人に分けて食べてもらいます。時間がゆったりと流れています。

(KM)

『小学生だから知ってほしい』

SEX・避妊・ジェンダー・性暴力』

高橋 怜奈/監修 ばばこ/漫画 主婦と生活社 2021



世界では、5~8歳からの段階的な包括的性教育が必要と考えられていますが、日本で性教育が始まるのは小学校高学年。全ての漢字にルビがふられ、漫画で描かれているので、性について考えるきっかけとして小学生が手に取りやすい一冊です。

(KA)

『戦争と児童文学』

繁内 理恵/著 みすず書房 2021

次の世代へ伝えたい戦争をテーマとした作品と作者をめぐる評論集。いずれも著者の作者への尊敬がこめられていて、今、改めて読み直したくなる作品ばかり。

(O)



『カイマンのクロ 人とくらしたワニ』

マリア・エウヘニア・マンリケ/文 ラモン・パリス/絵
とどろきしずか/訳 福音館書店 2022



親を亡くした、ちっちゃなカイマン。見つけたファオロが家に連れて帰って、すくすく大きくなった。クロと名付けられたカイマンは近所のこどもたちのアイドル。クロはまるで家族のひとりだった。ベネズエラで本当にあったお話。

(OY)

『天の蚕が夢をつむぐ 大島紬ものがたり』

谷本 雄治/著 フレーベル館 2022



奄美大島の大島紬づくりをしている南さんは、伝統を守るだけではなく、60歳を過ぎて「100%奄美産の大島紬」を考えます。まわりの協力も得て、輸入した絹糸ではなく奄美独自のヤママユという蛾を育て挑戦していきます。

(N)

みんなで変化の種をうえましょう

『世界じゅうの女の子のための日』

～国際ガールズ・デーの本～

ジェシカ・ハンフリーズ/文 ロナ・アンブローズ/文 シモーネ・シン/絵
国際NGOプラン・インターナショナル/訳・解説 大月書店 2021



「女の子だから」の次に来るフレーズはなんでしょう。強くなれない、学校に通えない、大工仕事はムリ、科学者には向かない等々。

そんな思い込みをふっとばす9人の女の子たちの物語を、ぜひ、読んでほしい。

(HN)



認定NPO法人高知こどもの図書館
選書委員会